

3代目もクリスマスチャン

執事 アントニオ 出口 崇

両親と母方の祖父もクリスマスチャン。

3代目にもなると自分の意思や信仰なんか関係なく、もの心ついたときから教会に行っ(連れて行かれて)いた。「神様はある、だろ？」と言うくらいにしか考えておらず、日曜日にサッカークラブに入っている友達をうらやましく思いながらも、教会で学校とは別の友達と遊ぶのが楽しかった。

中学、高校になると、楽しいことがたくさん増え(今の子は勉強が忙しくなるらしい)、教会に顔を出す回数も減ってはいいたが、教区のキャンプなどで、他の教会の同世代の友達と年に1、2回会って過ごするのがとても楽しかった。

信仰とか、神様とかにほとんど関心を向けずに、30年近くいたらだらだと教会に行き、礼拝堂の周りをうろついていた。これも3代目のなせる業なのか...(ちゃんとしていた3代目の人たち、ゴメンなさい)

他の人よりとても遅れて大人になった。大人になっただと言っても、出来ることが増えたとかではなく、自分が、たくさんの人を傷つけて生きてきたということも痛いほど実感したということ。

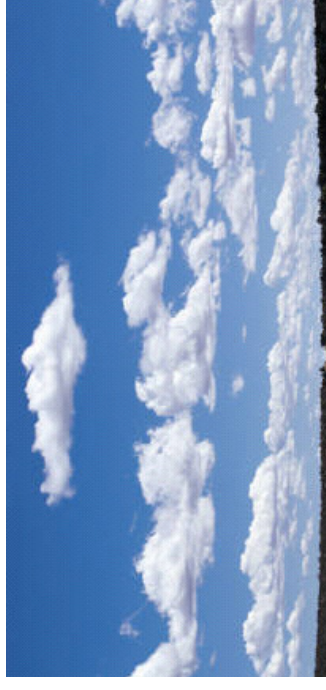
驚愕の事実にも何も出来なくなっ。「自分が関わる全ての人を不幸にしてしまう」と思い、人と関わることもとても怖くなった。

自分の意思で教会に行き始めたわけではないので、自分の意思で教会から離れる決断も出来なかった。仕方なく行っていたが、礼拝に出ても「神の赦し」なんて信用できなかつたし、自分には関係のないことだと思っていた。

そんな時昔から世話になっていた牧師から「お祈りの最後になんで『イエス様によって』って言うの？」と聞かれた。

そんなことすら考えたことのなかつた呑気な3代目は、することなかつたのでいろいろ本を読んでもみた。聖書も開けてみたが良くわからない。

ある本に「キリスト信者は罪人の一種である。自身の



罪深さを認めて神の赦しを乞うためにキリストの十字架にすがる者である。」と書かれていた。

「あ、赦しを願ってもいいんだ、俺クリスマスチャンになれるかも」ほんの少し楽になった。

聖書の中にパウロという人が出てくる。キリスト教を迫害していた人がイエス・キリストと出会い、回心し熱心に宣教活動を行う。「回心」とは、生き方を180度変えられるということらしい。

自分自身は、少し楽になった経験を得ただけで、いきなり善人になるわけでもなく、いまだにたくさんの人を傷つけ、たくさんさんの失敗をしている。

しかし、きっかけは何であれ、前を向くことができ、再度歩き出すことが出来たのは教会に行っていたおかげだろうと結果思う。

(でぐち・たかし 京都復活教会牧師補)

* 礼拝は、全ての人のために開かれています。お気軽にご参加ください。

* 個人的な悩み事の相談は、随時受け付けます。できれば事前に牧師までご連絡下さい。

COMPASSION No.2

～人に寄り添う深いあわれみのこころ～

2011年5月1日発行

発行元：日本聖公会京都教区

6028011京都市上京区烏丸通下立売上る桜鶴円町380

Tel.075-431-7204 <http://www.nskk.org/kyoto/>



必ずやり直せる。遅すぎることはない。

～“悔い改め”の意味～

私達は人生において、必ず失敗を経験します。失敗は、辛い経験です。特に責任ある職務や地位にある人が失敗すると、多くの人々に迷惑を掛け、鋭く責任が問われます。私達の社会には、失敗の責任を自分で負うことが「潔い」と

される伝統があります。そのため、真面目で優しい人ほど、失敗に責任を感じ、時には自分を追いつけてしまいます。けれども過度に自分を責めるのは、自分の心身を傷つけることとなります。そのように傷つくことを誰も求めています。もちろん神様も…。

わたしはあなたを選び、決して見捨てない。
恐れることはない、私はあなたの神。…
あなたの右の手を取って言う

恐れるな、わたしはあなたを助ける。(イザ41:9-12)

神様は私達と共にいて、私達の心の内を全て理解してください。神様に祈れば、きつと勇気が出てきます。失敗に対して、誠実に取り組んでゆけば、きつと活路は開かれてゆくはずです。必ずやり直せます。

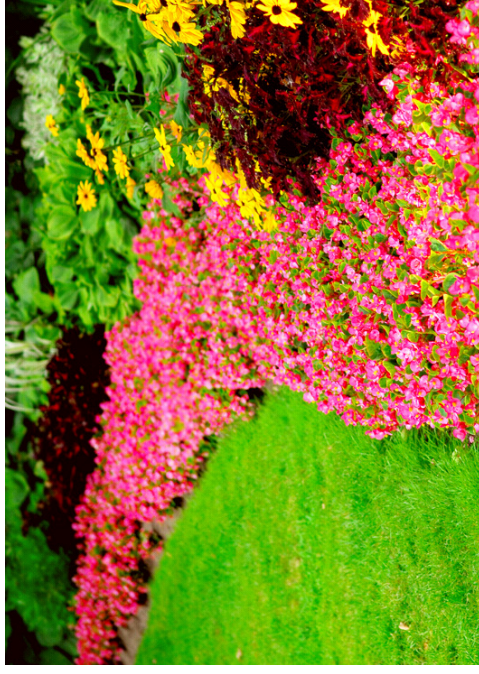
それでも、精神的に辛い思いが消えないかも知れません。「こんな失敗をしてしまった自分は赦されないのではなにか。」確かに周りの人からの赦しを得るのには、時間が掛かるかも知れません。けれどもイエス様は次のように言っておられます。

そのとき、ペトロがイエスのところに来て言った。
「主よ、兄弟がわたしに対して罪を犯したなら、何回赦すべきでしょうか。七回までですか。」イエスは言われた。「あなたに言うておく。七回どころか七の七十倍までも赦しなさい。」 (マタイ18:21-22)

イエス様は弟子たちに、赦しを説かれます。そのように説くイエス様が人を赦さないはずがありません。神様は私達を赦してください。時間が掛かるかも知れませんが、きつと周りの人々も赦してくれることでしょう。

このように、自分の失敗に向き合い、誠実に取り組み、前

向きに歩んでいくことが「悔い改め」なのです。悔い改めは、未来に向かって希望を持って歩んでゆく力です。必ずやり直せます。「遅すぎると言うことは決してありません。希望を持って歩んでゆきましょう。



人に寄り添う深いあわれみの心

Compassion No.2

* どうぞお気軽に、近くの教会にお立ち寄り下さい。

COMPASSION No.2
～人に寄り添う深いあわれみのこころ～

2011年5月1日発行
発行元：日本聖公会京都教区
6028011京都市上京区烏丸通下立売上る桜鶴円町380
Tel.075-431-7204 <http://www.nssk.org/kyoto/>